（様式2）新規評価シート

建設部　道路管理課

事業名	県代行事業			路河川名等	（村）長野殿線
事業毎の通番	1	市町村名	大桑村	箇所名（ふりがな）	大桑～殿（おおくわ～とのの）

事業概要

事業目的	本路線は、国道19号と木曽川右岸道路のアクセス道路に位置づけられているが、木曽川を渡河する大桑橋は現況幅員が約3.5mと狭小なことから交互通行が困難なうえ、老朽化により2tの重量制限を行っている。橋梁は大桑村が架替を実施するため、同様に幅員狭小である橋梁前後区間について代行事業を実施し、安全安心なアクセス道路を確保するものである。
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり（暮らしを支える道路網の整備）
事業実施の根拠法令等	道路法 過疎地域自立促進特別措置法
関連する事業、計画等	木曽川右岸道路（県：社会資本整備総合交付金） 大桑橋架替（村：社会資本整備総合交付金）
保全対象・範囲 受益対象・範囲	受益対象（不特定多数）で計画交通量1,900台／日

着手年度	平成28年度	事業期間	6年間	事業費（千円）	財源内訳（千円）			
完成年度（見込み）	平成33年度	費用対効果	2.3		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容（主な工種）	道路改築工　L=710.0m、W=5.5(8.75)m			800,000	400,000	80,000	288,000	32,000
年度事業内容（主な工種）	地形測量、路線測量　1式 道路、構造物詳細設計　1式			18,000	9,000	1,800	6,480	720

事業効果

直接的効果（定量的・定性的）	・一般国道19号と木曽川右岸道路を結び、橋梁整備と一体的に整備し、アクセス性の向上を図る。 ・現道幅員が3.5mと狭小なため、安全な通学路を確保する。（現橋梁も老朽化が激しく2t制限となっている）
間接的効果（定量的・定性的）	・地域間交流の促進と木曽谷の迂回路網を整備。木曽川で分断された村の交流促進。 ・消防活動困難地域の解消と安全な避難路の確保。

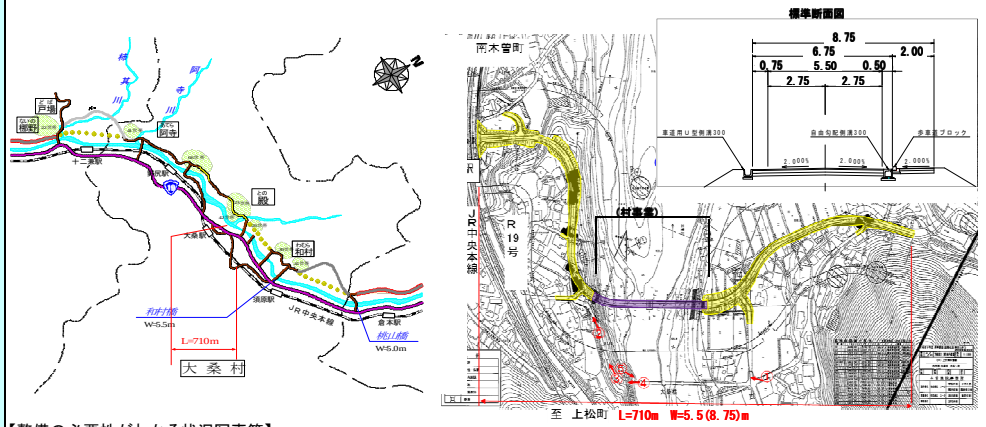
評価の視点

		評価
必要性	○計画自動車交通量　：　1,900台／日（H32将来計画交通量） ○交通結節点アクセス　：　JR中央本線大桑駅、（国）19号と木曽川右岸道路を結ぶ道路である ○工区間の大桑橋は、村事業として整備中である	B
重要性	○関連計画、重点施策との整合　：　（県）木曽川右岸道路、（村）橋梁整備大桑橋（社会資本整備総合交付金） ○緊急輸送路の路線指定　：　今後避難路に指定予定 ○地域指定　：　過疎地域	C
効率性	○費用対効果（B／C）　：　2.33(簡便法) ○事業期間　：　6年間（H28～H33） ○代替案の検討　：　なし ○他事業との連携　：　木曽川右岸道路、大桑橋架け替え	A
緊急性	○近年の交通事故件数　：　附属物or自転車×自動車事故発生　過去3年に2件あり ○危険箇所対策　：　危険箇所の該当はなし ○渋滞及び騒音・振動の緩和　：　渋滞及び騒音・振動の該当はなし ○歩道整備　：　通学路対策	B
計画熟度	○事業情報の共有　：　関係者を中心に周知（概略設計段階より事業説明会を開催） ○地域の取り組み　：　村施工の橋梁整備は事業化済みであり積極的である ○地域の合意形成　：　合意形成が図られている ○住民との協働　：　住民参加型の事業（維持管理に住民参加が見込まれる）	A

部意見		行政改革課意見		評価結果	総合評価
	国道19号と木曽川右岸道路を連絡する基幹道路であるとともに、消防活動困難地域の解消と安全な避難路を確保する地域の主要道路となるため、整備が必要である。		JRや各種公共施設を結ぶ生活道路であることから、必要性、緊急性は認められる。	○	B

事業概要説明図表

【位置図、平面図、構造図等】（縮尺任意ですが、見やすいもので）



【整備の必要性がわかる状況写真等】

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、木曽川右岸の殿地区で整備中の一般県道上松南木曽線（木曽川右岸道路）と木曽川左岸の一般国道19号を結ぶアクセス道路であるとともに、JR中央本線大桑駅や各種公共施設を結ぶ生活路線である。このうち計画区間内の木曽川を渡河する大桑橋は、大桑村が単独事業として積極的に整備を進めている。本事業区間は、大桑橋の取り付け道路となるため一体となって整備を行い、事業効果の向上を図るものである。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、木曽川右岸の殿地区と木曽川左岸の国道19号、JR中央本線大桑駅、各種公共施設を結ぶ生活道路であるが、大桑橋は架設後約60年経過しており、安全面から2tの通行荷重制限規制を行っている。また、道路部においても幅員3.5m程度と狭く、交通難所となっている。このため、殿地区から村の中心部への最短ルートである当路線の改良要望が強く、また安全な歩行空間の確保も要望されている。
③事業説明等の経緯	地元へは概略設計段階において、平面図を用いてルート案を提示し、平成25年度に計画の了解を得ている。また、橋梁部に関しては大桑村がH26に事業化している。このため本事業区間も早期の事業化が求められている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	木曽川右岸道路と一般国道19号のアクセス道路として位置付けられており、計画区間の中間部においては、大桑村単独による橋梁整備が事業化されている。また、一般国道19号との交差部付近でも直轄事業による交通安全事業が実施中であり、当事業とあわせて相乗効果が期待できる。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	今後維持管理等について、地元と協議予定。また、狭隘区間の通行車両が減少し、生活環境の安全性も確保できる。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により木曽川により分断された地区相互の交通の円滑化や安全性の向上が図られ、村内施設への行き来がしやすくなることから、地域間交流の活発化が期待できる。
⑦その他	道路築造に用いる大量の盛土材は、木曽川右岸道路のトンネル残土の利用が見込まれるため、コスト縮減が可能である。

事業代表地点の緯度経度	
	北緯：N 35° 41′ 16″ 00
	東経：E 137° 39′ 59″